

理工展示資料・装置など

屋外展示場

● 50万ボルト用 8 m 碍管

この碍管は現在日本でもっとも高電圧の50万ボルトの変電所に使用する碍管です。この中は中空で、これに導線を入れ、外界と絶縁して、変電器等の内部へ電気を通すようになっています。

原料は、本県産の天草陶石や、対馬長石の原石を微粉碎して粘土状にし成形乾燥した後、うわ薬をかけ約 1,300℃で焼き上げたものです。強度は、関東大震災にも耐える強さをもち、また海水による塩害汚損にも安全に電気が送れるようになっています。一体製碍管で世界最大級のもので、すでに各電力会社の50万ボルト変電所において、変圧器およびケーブルヘッド用碍管として数多く用いられています。



● 通潤橋の石樋

通潤橋には3本の通水管が通っています。この通水管の材料は、上質の石材をくり抜いた石樋のブロックを作り、これを数多く連結してパイプとします。

パイプの継ぎ目は巨大な水圧に耐え得るように独特の工夫をこらしてあります。

石樋と石樋の合せ目は溝を切り、その中へ接着剤としての特殊な漆喰を入れて、水もれを防いでいます。

● 6.26大水害で曲げられたレール

昭和28年6月25日から降りはじめた豪雨は、28日まで降りつづきました。この4日間の降雨量は熊本の半年分にも達する雨量で、熊本市だけでも死者 206名、行方不明 125名という人々の予想も及ばぬ大損害を与えました。

特に26日の雨量は大きく、家屋、道路、橋などが次々に浸水・流失し、ついに26日午後9時30分、豊肥線竜田駅下手白川第2鉄橋も流失してしまいました。

この飴のように曲がったレールは、当時の大水害がいかに凄いものであったかをしのばせてくれています。